

【活動名】

曾根干潟における貴重種の特定と保護・保全活動

【団体名】

NPO法人自然環境定量評価研究会

【団体概要】

- ① 設 立 目 的：生物や自然環境を定量的に評価し自然環境の保全と創造活動を行う。
- ② 設立年月日：平成11年3月21日
- ③ 会 員 数：16人

【活動実績】

- ・ 曾根干潟における貴重種の特定と保護・保全活動（平成24～令和4年）
- ・ みなとや海辺の親しみ創出事業：曾根干潟の生きもの観察会（平成28、29年）
- ・ うみたび体験事業：曾根干潟の生きものに会いに行こう（平成30年、令和元年）

【活動内容】

- ① 活動目的
本活動は、曾根干潟に生存する絶滅危惧種や貴重種に着目して、それらの生物を保護・保全するための方法を究明することを目的とする。
- ② 活動内容
 - 1) 実施月日：令和5年5月1日～令和6年1月29日
 - 2) 実施場所：北九州市小倉南区曾根新田地先 曾根干潟
 - 3) 参加人数：現地調査9月16日：14人、9月18日：10人
 - 4) 活動内容：大野川の河口付近に形成されているヨシ原で目視調査を行うとともに、底質の硫化水素やCOD、粒度組成等を測定し、カブトガニ幼生の生息個体数を調査した。
- ③ 活動成果
 - 1) 大野川河口ヨシ原における目視調査により確認された種は全15種（3門3綱5目10科）である。このうち、環境省および福岡県のレッドリスト等に記載された重要な種は貝類のシマヘナタリガイ、カニ類のシオマネキ等10種（貝類6種、カニ類3種、魚類1種）であり、全確認種の67%以上を占めた。また、定量調査の4測点で確認された底生生物は、3門5綱11目19科22種であった。そのうち重要種は、貝類のウミニナ、イボウミニナ、ヘナタリ、カニ類のオサガニの4種のみであり、昨年8種から半減した。
 - 2) 発見されたカブトガニ幼生の個体数は、北干潟で0個体、南干潟で123個体であった。昨年は北干潟で2個体が確認されたが、今年は2年ぶりに北干潟で幼生が確認されなかった。多くの幼生が確認された地点は南干潟の貫川河口から南干潟中央付近（P14～P18）の間である。この間で全個体数の8割以上の個体が確認された。また、以前と比べると生息域がやや沖に移動した様相である。
 - 3) 底質の溶存態硫化水素に関しては、全ての測点で0.1mg/Lかそれ以下であった。含泥率や底質CODは若干増加したが、底質のクロロフィルa等は特に大きな変化はなかった。硫化物は昨年4測点すべてで増加したが、今年は減少し例年に近い値になった。

【今後の活動予定・団体のPR】

今後は干潟の観察会等による環境教育の効果をアンケート調査で明らかにしたい。

【連絡先・ホームページアドレス・SNS】

連絡先：北九州市小倉南区朽網西4丁目27番1号

ホームページアドレス：<http://teiryoken.jp>



調査前の集合写真（9月16日）



大野川左岸のヨシ原における漂着ごみ
（9月18日）



オカミミガイ（絶滅危惧Ⅱ類）



シオマネキ（絶滅危惧Ⅱ類）



トビハゼ（準絶滅危惧）



底生生物コドラート調査St. 1（P7）



イボウミニナ（絶滅危惧Ⅱ類）



カブトガニ幼生（絶滅危惧Ⅰ類）